

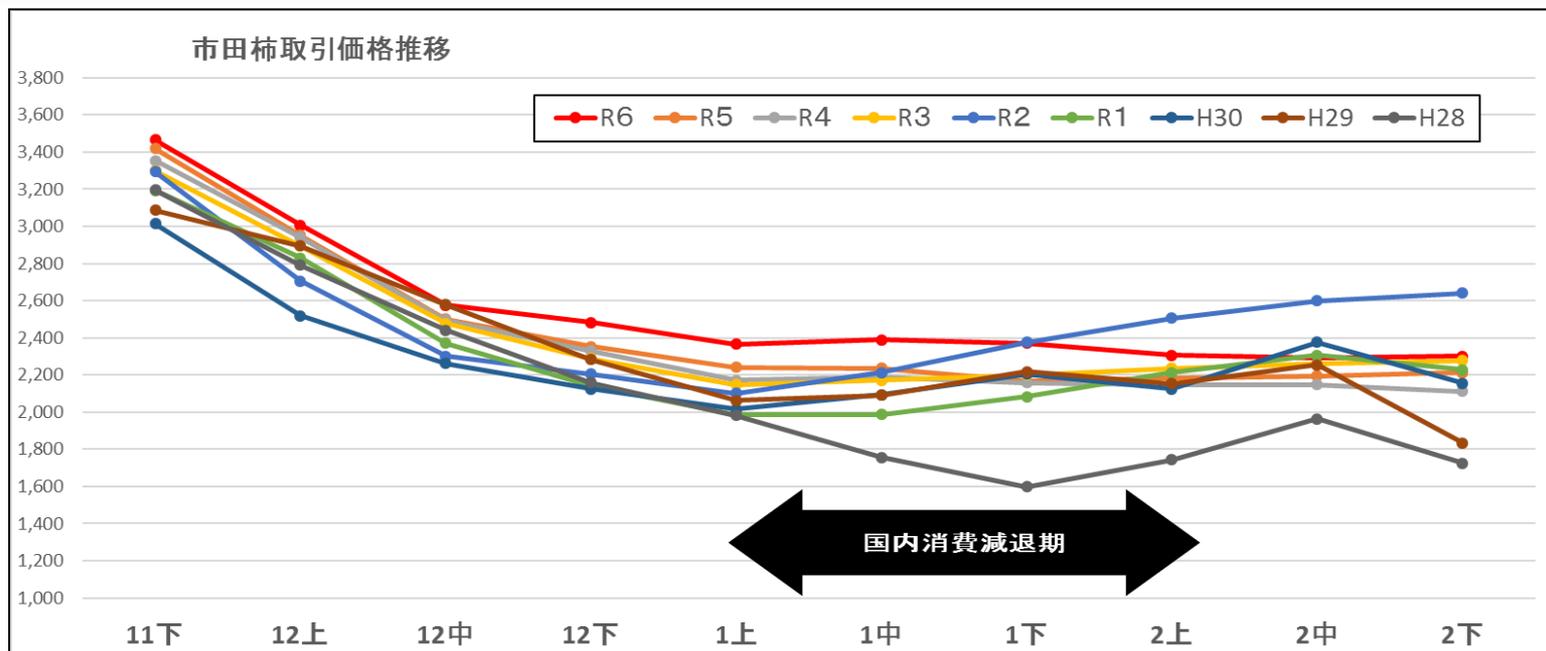
市田柿輸出の取り組みについて

みなみ信州農業協同組合 営農部販売課 【2025.05.26】

市田柿輸出の目的①

1. 国内相場の安定

国内最需要期は年内であり、1月以降は消費減退から市場価格が下がる事が多く、売り場づくりが課題となっており、輸出拡大にチャレンジした。



市田柿輸出の目的②

2. ブランド確立に向けた国内外商標の活用

2006年：地域団体商標を取得

中国産市田柿の流通を契機に保護対応を協議

2009年：香港商標登録

2010年：台湾商標登録

2016年：地理的表示（GI）保護制度に登録

市田柿ブランド推進協議会に加入する全ての団体等で生産工程・衛生管理・出荷基準を統一しブランド化を強化

海外GI：2018年タイ登録・2020年シンガポール登録

2019年マレーシア・2021年ベトナム登録

* 国が不正使用を取り締まる事でブランド価値を保護

市田柿輸出の目的③

3. 産地の基盤強化

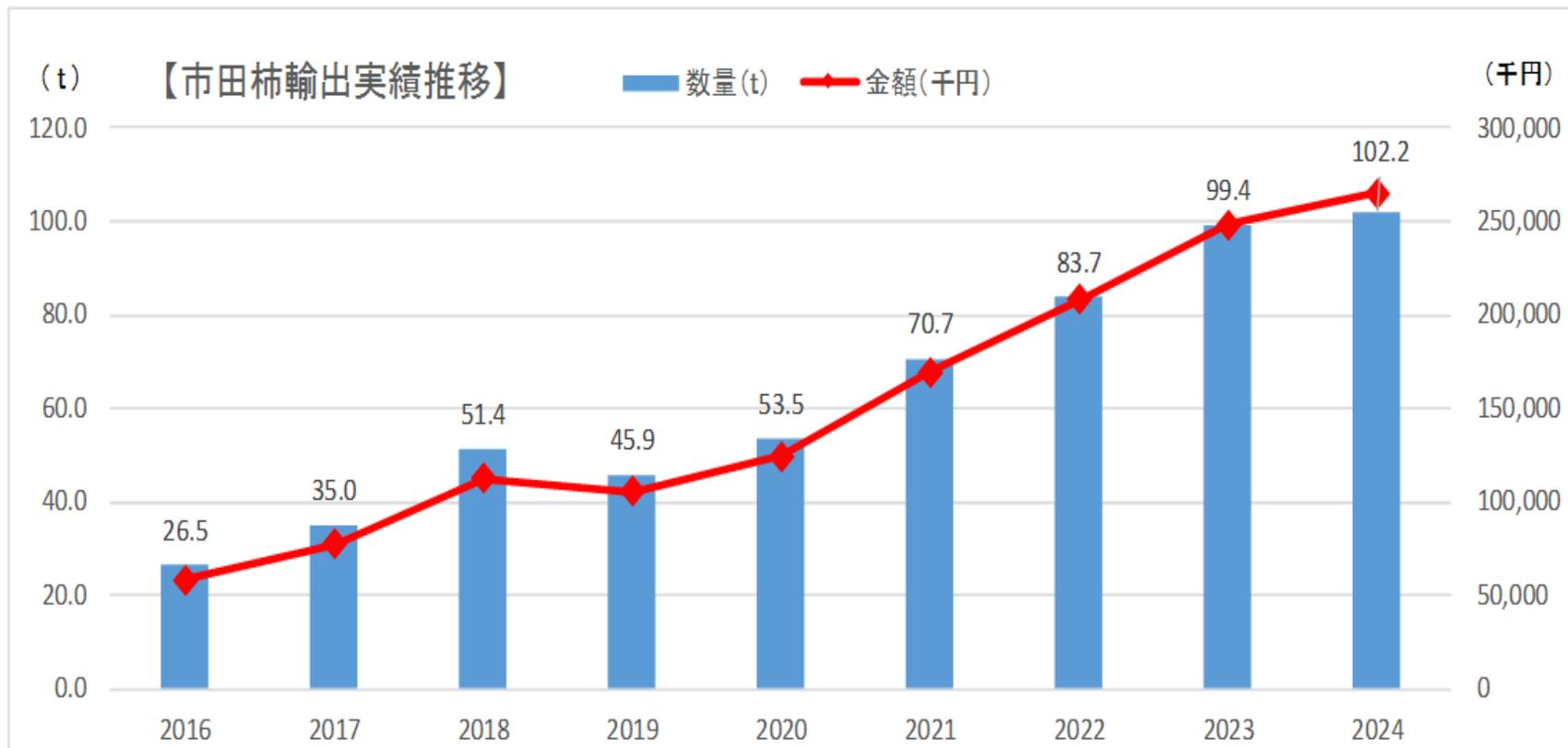
南信州地域の冬のボーナスであり、JAみなみ信州としても最重点品目として位置付けであり、担い手確保や生産維持・拡大に取り組んでいる。

輸出は生産拡大時の販売チャンネルとして重要！！

【みなみ信州栽培目標】

	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
部会員数	1,737名	1,720名	1,700名	1,680名	1,650名
作付面積	391ha	398ha	405ha	412ha	422ha
植付本数	3,000本	3,000本	3,000本	3,000本	2,000本
生産量	1,110 t	1,130 t	1,150 t	1,170 t	1,230 t
販売金額	26.6億	27.1億	27.6億	28.1億	29.5億
担い手育成	6名	7名	6名	6名	6名

市田柿輸出実績①



- 令和6年度初めて輸出量100 t を超え、102.2 t の実績となった。
- 財務省貿易統計の干し柿実績167トン【期間：R6.11月～R7.2月】
(市田柿出荷時期を抜粋するとシェア61%)

市田柿輸出実績②

単位：kg

アイテム	輸出国											アイテム計 (kg)	単価 (kg)	販売金額 (円)
	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	カンボジア	ベトナム	カナダ	ハワイ(USA)	イギリス	ドバイ			
R6実績	85,427.3	7,423.3	910.2	327.4	4,590.0	0.0	3,169.2	0.0	331.5	0.0	0.0	102,178.9	2,598	265,469,100
R5実績	84,322.2	5,708.4	331.5	893.7	4,702.5	0.0	3,138.8	3.4	280.5	0.0	0.0	99,381.0	2,496	248,027,050
R4実績	64,034.4	10,078.5	3,359.9	2,853.7	2,205.0	914.4	96.7		178.5	0.0	15.3	83,736.3	2,485	208,060,700
R3実績	59,815	6,314	1,237	877	1,807	394	72		179	0	2	70,697	2,394	169,278,600
R2実績	36,082	4,634	1,186	1,032	10,102	265			153	0		53,455	2,330	124,549,941
R1実績	32,288	6,008	1,592	631	5,043	66			306	5		45,940	2,286	105,026,540
H30実績	33,330	13,570	1,990	90	2,170				260			51,410	2,182	112,200,000
H29実績	28,000	5,700		1,300								35,000	2,200	77,000,000
H28実績	25,000	1,000			500							26,500	2,200	58,300,000

- 輸出のメイン国は圧倒的に台湾（シェア83.6%）
- 近年はベトナムへ販路を拡大しているが、本年は新規開拓国としてタイへの市場調査や販路確保に取り組む



市田柿輸出の取り組み経過①

- 2016年度：ジェトロ地域団体商標海外支援事業 1年目
香港・台湾のマーケット調査、ブリーフィング
現地プロモーションを実施
- 2017年度：ジェトロ地域団体商標海外支援事業 2年目
市田柿の魅力を消費者に伝えるために中国語版
英語版のリーフレット作成
三遠南信連携輸出事業にてマレーシアのマー
ケット調査実施（飯田市・浜松市・田原市・豊橋市）
- 2018年度：市田柿海外輸出推進プロジェクト 始動
賞味期限延長試験実施（飯田市農業振興センターの協力）
*最長60日⇒90日に延長する事で船便輸送後も
販売期間を十分に確保できる



市田柿輸出の取り組み経過②

- 2019年度：G F P グローバル産地づくり推進事業 1年目
- ・賞味期限延長資材作成と台湾での試験販売
 - ・イタリア市場調査
- 2020年度：G F P グローバル産地づくり推進事業 2年目
- ・ABCCookingStudioと連携し東南アジア5か国にて試食会実施し、現地のニーズ調査の為のアンケート実施
 - ・日本の食輸出EXPO出展（コロナの為渡航できない）
 - ・ベトナム向けリーフレット作成
 - ・GI取得業者と連携しイタリア向けリーフレット作成
 - ・輸出専用ギフト資材作成



市田柿輸出の取り組み経過③

- 2021年度：G F P グローバル産地づくり推進事業 3年目
- ・ ABCCookingStudio SNS を活用した情報配信
 - ・ ベトナム市場調査、プロモーション実施
 - ・ イタリアレストランでのレシピ開発と試食会
 - ・ マレーシア市場構築に向けた勉強会実施
- 2022年度：GI加工食品輸出産地確立事業 1年目
- ・ ABCCookingStudio と連携し、東南アジア5カ国向けにリーフレット作成
- JA独自事業として、台湾・ベトナムでのプロモーション実施
- * 柿・干し柿が国の輸出重点品目に追加
令和4年1月より財務省貿易統計に干し柿追加
 - * 全アイテムで賞味期限延長対応開始



市田柿輸出の取り組み経過③

2023年度：GI加工食品輸出産地確立事業 2年目

- ・ ABCCookingStudio台湾との連携
- ・ 栄養成分分析の実施

JA独自事業として、台湾・ベトナムでのプロモーション実施（台湾・ベトナムへの渡航）

2024年度：フラッグシップ輸出産地認定（7月）

- ・ 輸出量初100トン突破

市田柿輸出の取り組み経過④

フラッグシップ輸出産地の概要

みなみ信州農業協同組合（代表理事組合長 寺沢 寿男）

輸出
品目

青果物
(干し柿)

主な輸出先国	台湾、香港等（2023年）	輸出実績	250百万円（2023年）
対象となる地域	長野県飯田市・下伊那郡松川町・高森町・豊丘村・大鹿村・喬木村・阿智村・下條村・阿南町・泰阜村・売木村・平谷村・天龍村・根羽村・上伊那郡飯島町・中川村		

輸出産地の概況

- ・長野県南部に位置し、特産である市田柿（GI登録産品）の栽培者は1,830名所属しており、地域農業の柱として振興に取り組んでいる。
- ・輸出事業は平成28年より本格的な取組を開始。

輸出に向けた規制・ニーズに対応した生産・流通の取組

- ・台湾では、賞味期限延長要試験を実施し、包材を変更することで従来60日を90日まで伸ばす事が可能になり輸出量拡大に繋がった。
- ・香港では、販促活動、市場調査に加え、現地での試食会を実施し、認知度向上・消費拡大に取り組んでいる。

アピールポイント

- ★市田柿については、国内の需要低下時期を海外販路（特に中華圏の春節）に向ける事で、国内の相場維持を最大の目的としており、シーズン通して安定した価格で販売できるようになり、輸出拡大が平均単価の向上に繋がっている。



台湾果実専門店にて
試食販売



台湾現地での試食会
(女性・若年層へのPR)

今後の輸出目標

- ◇海外の新たな市場開拓と固定ファンの確保
東南アジア中心に各国別に課題整理し実需者ニーズを確実に捉える。
欧州への新規市場開拓に取り組み、外食事業へのアプローチを実施する。
- ◇生産量拡大に伴う輸出量の拡大
日本一の干し柿産地として市田柿ブランドを維持するためにも生産量拡大が重要であり国内マーケットを抑えながら、輸出拡大に繋げる。
生産量減では輸出に取り組む必要性が低下する。
産地力向上のための武器として輸出に取り組む。